第３学年　組　国語科学習指導案

[redacted]

１　単　元　４　古典を楽しむ　「夏草―「奥の細道」から―」

２　指導観

○　本教材「夏草」は松尾芭蕉の紀行文「おくのほそ道」の冒頭部分と、平泉の部分から構成されている。「おくのほそ道」は、江戸時代の代表的な作品であり、日本文学史上においても価値の高い作品である。その内容は江戸を門人と出発し、奥州・北陸をまわり大垣に到着するまでの１５０日間、実に２４００キロの旅の記録であるが、芭蕉が推敲に推敲を重ね、簡潔な漢文調で格調の高い文章である。三年間の古典学習の最後に当たって芭蕉の代表作であるこのような魅力的な文章を読むことは、それ自体大変意義深いものであり、これからの人生において古典に興味を持ち、古典を楽しむということについて有効な教材と言えよう。本教材の〔１〕の部分では、時間は旅人であり、人間も旅人であるという人生観が提示され、続いて自分自身の心境に転じて、旅に対するあこがれ、旅の用意が語られる。〔２〕では、奥州平泉での藤原三代の廃墟の様子、描写に続いて、人間のはかなさについての感慨とこれと同内容の「夏草や・・」などの名俳句三句が置かれる。散文と俳句がみごとにとけあい深みのある表現を味わうことができる。また、対句表現や、漢文的な言いまわしは、リズミカルで音読するにも、暗唱するにも楽しんで取り組むことができ、格調高い文章を読みこなすことで古典に対しての自信と興味が高まることが期待できる。

○　本学級の生徒は、活発に意見を出すことができる生徒と、発表は少ないが、じっくり物事を考えることができる生徒に分かれている。班での話し合いは、班長を中心にできるように、これまで取り組んできている。また、３年生ということで、受験も近づいてきて、授業中の真剣さも増してきている。

　生徒はこれまで、一年「蓬莱の玉の枝」（竹取物語）、二年「扇の的」（平家物語）、「枕草子」、「仁和寺にある法師」（徒然草）の学習を通し、古典の文章に出会い、音読や朗読を中心に古文に読み慣れ、親しむとともに古人の生き方やものの見方を読み取ることにより、古文に対する興味・関心を高めてきた。しかし、生徒は古典に対して、苦手意識や拒絶的な態度をもっている子も少なからず存在している。歴史的仮名遣いや古語の理解が十分でなく、現代語訳に対して強い苦手意識を感じており、作品本来のおもしろさにたどりつかない要因となっているようだ。そこで、本単元では音読や、芭蕉の旅に対する思い、現在を生きる私たちとの共通の思いを考えることで、作品本来のおもしろさを味わわせ、作品への関心を深めさせたい。

○　本単元の指導に当たっては、作品が俳諧紀行文であるので、芭蕉がどんな思いで旅をしており、旅に対してどんな考え方をしているのかをつかむことによって、作品のおもしろさや、芭蕉の旅に対する思いと現代を生きる私たちとの共通の思いを考えさせたい。また、独特の漢文調の文章や、表現の特徴、それぞれの文章にそえられている俳句を鑑賞することで、芭蕉が推敲に推敲を重ねた格調高い文章を楽しませたい。

　そのために、「おくのほそ道」俳句地図や旅行のパンフレット、ビデオ映像などを用いて、この作品が江戸時代の旅行記であることを知らせ、作品への興味を喚起したい。次に苦手としている歴史的仮名遣いに慣れさせるために、毎時授業のはじめに、「おくのほそ道」の冒頭部分を暗唱をすることを目標に音読を取り入れ、読み慣れさせることで仮名遣いへの不安を払拭させる。現代語に直すことを苦手としているので、ワークシートを工夫し、教科書にある現代語訳を中心に内容をとらえさせる。また、漢文調で対句表現などが多用されたリズミカルな文章なので、音読を多く取り入れて古文を音で楽しませるとともに、表現の特徴を味わわせることで、古典への自信と意欲を高めさせたい。次に、作品のおもしろさや芭蕉の旅への思いを理解させるために、文章の解釈をしたのちに、原文の随所に描かれた芭蕉の旅への思いをとらえさせ、旅に対する考え方や思いを、小集団で討議させ、さらに学級全体で意見の交流を行わせる。また、〔２〕の部分では解釈後に、人生や自然に対する作者のものの見方や考え及び感じ方を考えさせ、現代とつながる部分を文章にまとめさせる。

３　目　標

○芭蕉やその作品に関心を持ち、作者の生き方や考え方について考えようとしている。
（関心・意欲・態度）

○表現をたどりながら、人生や自然に対する作者のものの見方や感じ方をとらえることができる。
（読むこと）

○芭蕉の行き方や感じ方について読みとった内容について意見交流をし、思考を深めることができる。
（話すこと・聞くこと）

○芭蕉の生き方やものの見方について考え、感想を交えて書きまとめることができる。　（書くこと）

○音読を通して、古文や漢文調の言いまわしに慣れ、作品の表現の特徴を理解することができる。
（言語についての知識・理解・技能）

4　単元指導計画(計６時間)　　関：関心・意欲・態度　読：読むこと　話：話すこと・聞くこと　書：書くこと　言：言語についての知識・理解・技能

次	時	学習活動・内容	ねらいと手だて	評価規準
一	1 ①	1　単元学習の見通しをもつ。 (1)　自分にとって旅はどんなものかを考えさせ作品に対する関心を高める。 (2)「おくのほそ道」と松尾芭蕉についての基礎知識をもつ。 ・ビデオで芭蕉の見たであろう旅の風景を感じ取る。 ・教科書に掲載されている「おくのほそ道」俳句地図を追って、二千四百キロを歩いて旅したことを知る。 (3)単元の学習内容を知る。	作品と作者に対する基礎知識を持ち、単元に対する学習の意欲・関心を高めるようにする。 ○旅と自分との関わりを明らかにさせるために「思い出に残る旅」「行ってみたいところ」などを発表し合わせる。 ○現代の観光目的の旅行とは隔たりがあることを感じさせるためにビデオや「おくのほそ道」俳句地図を提示する。	関：旅と自分の関わりを考えるとともに、「芭蕉」や「おくのほそ道」の概要を知り、学習に対する関心をもとうとしている。
二	1 ②	2　現代語訳、脚注を参考にしながら、原文の内容、表現の特徴をとらえ、作者の旅についての思いを考える。 (1)　仮名遣いを確認し、〔1〕の原文を繰り返し音読し、芭蕉独特の言い回しに慣れる。 (2)　原文〔1〕を通読し、現代語訳を中心に内容をつかみ、表現の特徴をとらえる。 ・古語の意味 ・漢文調、対句、俳句	文章と俳句から「芭蕉」の旅に寄せる思いや、人生や自然に対するものの見方や考え方を読みとることができるようにする。 ○現代語訳を中心に大まかな内容をとらえさせる。 ○古典特有の語句や対句表現について、ワークシートに記入し、表現の特徴をとらえさせる。	読：声に出して、読むことができる。 読：〔1〕の内容をとらえることができる。 言：表現の特徴を理解することができる。
本時2／2		(3)　「芭蕉」の旅についての思いを考え、意見を交流する。 ・原文の旅についての記述 ・小集団で意見交流 ・まとめた意見を全体の場で発表	○「芭蕉」の旅への思いに気づかせるために、〔1〕の原文で旅への思いが表れている記述に線を引き、感じとらせる。 ○小集団で「芭蕉」の旅に対する思いを述べ合い、考えたことを深めさせる。	読：旅についての「芭蕉」の思いを読みとることができる。
	2 ②	3　現代語訳、脚注を参考にしながら、〔2〕の部分の原文の内容や、表現の特徴をとらえ、「芭蕉」が高館や光堂で何を見、何を感じたか読みとり、「芭蕉」の人生や自然に対するものの見方、感じ方に触れる。 (1)　仮名遣いを確認し、〔2〕の原文を繰り返し音読し、芭蕉独特の言い回しに慣れる。 (2)　原文〔2〕を通読し、現代語訳を中心に内容をつかみ、表現の特徴をとらえる。 ・古語の意味　・位置関係 ・漢文の引用　・俳句 (3)「芭蕉」が「高館で時がうつるまで泪を流した」思いを想像し、「芭蕉」が自然や人生に対してどんなものの見方や感じ方をしているのか考え、意見を発表する。	○現代語訳を中心におおまかな内容をとらえさせる。 ○古典特有の語句や対句表現、漢文の引用などについて、ワークシートに記入させ、表現の特徴をとらえさせる。 ○「芭蕉」の見た風景を想像させるために、平泉周辺の地図で位置関係について説明する。 ○「芭蕉」がめぐらした思いをさぐらせるために、奥州藤原氏の繁栄と滅亡について説明する。 ○「時がうつるまで泪をながした」芭蕉の思いや、自然や人生に対するものの見方、感じ方を考えさせるために『春望』（杜甫）の漢詩と、三句の俳句を提示する。	読：声を出して、正確に読むことができている。 読：〔1〕の内容をとらえることができる。 関：歴史的な背景や位置関係など、理解しようとしている。 読：「芭蕉」が泪を流した思いをとらえることができる。
三	1 ①	4　〔1〕〔2〕の全体を通して、好きな部分を書き出し、単元で学習したことを根拠に理由を述べ、気持ちを込めてその部分を音読する。	単元で学習したことをもとに、好きな部分を書き出し、作品への理解をさらに深めさせる。 ○古人の思いと現代に生きるわれわれとの共通点を考えさせるために、学習を振り返らせる。	関：単元の学習内容を身につけることができる。

5　本時　　平成２２年１１月１８日（木）第５校時　　第３学年　組教室　　第二次の１時（２／２）

(1)　本時の指導観

前時までに〔１〕の旅立ちの場面の大意をつかみ、現代語訳と漢文調の独特の表現や対句など、文章の特徴を学習している。（習得）そのうえで、本時では「芭蕉は旅に対してどのような思いを持っていたのか」について、読みとらせる。

そのために、まず〔１〕の部分について前時の内容を想起させる。次に、芭蕉の思いが分かる表現に線を引かせ、そのときの思いを想像させてワークシートに書き込ませ、その内容を、小集団（班）中で交流させる。このとき、自分の意見と他者の意見を比較させ、考えを深めさせるために、聞きとりメモ（ワークシートと同型）をとらせる。そして、意見交流で出た内容をもとに小集団で「芭蕉は旅に対してどのような思いを持っていたのか」について、意見をまとめさせ学級全体で発表をさせる。最後に、学級全体の意見交流を受け、「芭蕉が旅に対してどのような思いをもっていたか」を、感想を　交えながら書きまとめさせることで、より深く芭蕉の思いに迫らせ、現代人との関わりを見いださせたい。

学習活動	具体的な手だて
定着活動	〔１〕の部分を暗唱することを目標とし、何度も音読させる。
目標設定	学習過程及び学習内容の示唆を行う
活用活動	課題に対する考えをより深めさせるために、芭蕉の旅に対する思いを想像し書きまとめさせ、さらに、小集団での意見交流で、他者との意見の比較をさせる。**《深い思考》**
振り返り活動	本時の学習において、分かったこと、気づいたこと、感じたことを記述させる。

(2)　主眼　「おくのほそ道」の冒頭部分を読み、旅についての「芭蕉」の思いを読みとることができる。

(3)　準備　①本文を書いたシート　②学習プリント　③音読プリント

(4)　過程

学習活動・内容	主な支援	評価の観点 (方法)	形態	配時
1　仮名遣いを確認し、音読する。 ・〔１〕の仮名遣いの確認 ・〔１〕の部分を２人組で繰り返し、音読する。**【定着活動】** 2　めあてを確認する。 ・前時を想起する。	○歴史的仮名遣いや古典独特の言い回しに慣れさせるために、２人組で音読をさせ、音読チェックシートに記入させる。		二人組 一斉	5
めあて　芭蕉は旅に対してどのような思いをもっていたのか考えよう。				
(1)　学習の手順を確認する。 ・芭蕉の旅に対する思いがわかる表現に線を引く。 ・そのときの思いを想像し、ワークシートに書き込む。 ・班で意見交流 (2)・　自己目標の設定 **【目標設定】**	○学習の流れを確認させる。 ・ワークシートを配布し、書き方を確認させる。 ・班の中で意見交流し、芭蕉の旅に対する思いをまとめ全体発表することを確認させる。 ①芭蕉の思いが分かる表現に線を引くことができる。 ②線を引いた表現から芭蕉の思いを想像し、書くことができる。 ③他の人の意見も参考にして、芭蕉の旅に対する思いを書きまとめることができる。		個	10
3　芭蕉の旅に対する思いを想像する。 (1)芭蕉の旅についての思いが分かる部分に線を引き、そのときの思いを想像し、書き込む。 ・「予もいづれの年よりか、片雲の風にさそはれて・・・」「そぞろ神の・・とるもの手につかず　・・」の叙述から、作者の旅に出たくて仕方ないという思いがわかる。 (2)小集団で話し合い、出た意見をもとに芭蕉の旅に対する思いを書きまとめる。 ・芭蕉にとって旅はわくわくするものだが、覚悟もいるものである。 (３)グループで話し合ったことを全体の場で発表する。 ・旅に対する強い情熱 ・旅をすることが人生そのもの ・時間も人も旅人という人生観 ・文学に対する向上心**【活用活動】**	○思いを想像するヒントを示唆する。 ・いくつかの叙述を組み合わせて、想像する。 ・前時の学習や現代語や脚注を参考にする。 ○話し合いの仕方については事前に確認しておく。 ・出た意見はできるだけメモする。 ・結論が一つにならない場合は、いくつかになっても良いことを指示する。 ○根拠になる叙述を述べて、発表するように指示しておく。 ・文学に対する向上心について、意見が述べられなかった場合は、「古人」が誰かなどのヒントを与える。	○芭蕉の旅への思いを読みとることができている。 (学習プリント)	班 一斉	15 15
4　本時の学習を振り返る。 （１）グループで話し合ったことをもや全体で発表された意見をもとに、芭蕉の旅に対する思いを個人でまとめる。 （２）自己評価をする。 **【振り返り活動】**	○本時の学習をもとに、芭蕉の旅に対す思いを考え、感想を交えながら書くよう指示する。		個	5